

須賀利で定置網漁初操業

東京の飲食業ゲイト シマアジなど水揚げ



ゲイトの定置網漁初操業(20日朝、尾鷲市須賀利町の元須賀利で)

尾鷲市須賀利町、元須賀利のクラモトで定置網漁の準備を進めて一社長)は20日の初操業で、シマアジ5匹やヒラメ3匹、メイチダイなど65・2キを尾鷲魚市場に水揚げした。

定置網漁場は須賀利漁港から東約8キ、2016(平成28)年まで同市天満浦の功漁丸が操業していた元須賀利の入り口。これまで同社須賀利支店に常駐の戸田聡水産事業部長(41)や地元漁師ら4人が定置網の外枠(約250ジ)を設置し、箱網、昇り網、運動場、道網を入れてきた。

初日のこの日は午前5時30分、五月女社長(45)や社員ら8人を乗せた定置網漁船「八咫丸」(やたまる)が8時が同町西の浜を出発。漁場で6時から総出でロープを引き、網に掛かったシマアジやヒラメ、メイチダイ、ウマツラハギ、グレ、アオリイカ、カワハギなどをたも網ですくって船内のいけすに運んだ。太田憲明県尾鷲農林水産事務所長や三重大学の坂本竜彦教授らも別の船から漁を見守った。

7時過ぎに尾鷲漁港に水揚げし、早速競りに掛けられ仲買人に次々と競り落とされていった。戸田部長は「天候に悩まされ準備に手間が掛かったが、無事に初漁が終わって良かった。水揚げは少なかったがシマアジなども捕れてほっとしている。クラモトは魚種が多様で魚の通りも良く、可能性がある漁場なので須賀利がにぎわうきっかけになれば」と笑顔を見せた。

五月女社長は「漁業従事者がどんどん減る中、漁業を始められたことに喜びを感じている。初めてとしてはまずまずの水揚げだったのでは」と話し、「地元との協力でようやく最初の一步が踏み出せた。まだまだ課題はあるが、長く続けるためにもまずは操業の安定を目指したい。これからも頻繁に須賀利に通い、東京から取引先や常連客をここに連れてきたい。須賀利がにぎやかだったころを復活させ、漁師が増えるきっかけになれば」と意欲を見せた。

同社は東京都内で居酒屋13店舗を経営し、ヘルスケア事業も展開。16年11月に水産部門を設立し、熊野市二木島町で後継者不在のため廃業の水産加工場を受け継いだ。

昨年9月、尾鷲市須賀利町に支店を開設し、操業の準備を進めていた。